

## ニュージーランド・オークランドの公共図書館サービス ー地域の特徴を活かしたプログラムに着目してー

立野 則子

ニュージーランドは行政改革が盛んな国であり、自治体の合併・再編による行政の効率化を推進している。また、商業の中心地であるオークランドにはマオリ系住民、太平洋諸島系住民を始めとして様々な文化的背景を持つ住民が暮らしている。オークランドの図書館は地域の特徴に対応して、地域住民が母語とする言語の資料を収集している。それに加えて、各住民の文化について相互に理解を深めるプログラムや、英語以外の言語によるコンピューター講座を提供している。

ニュージーランドの図書館では日本に先んじた行政改革やグローバル化への対応が行われている。それにも関わらず、日本ではニュージーランドの図書館に関してほとんど研究されていない。そこで本研究ではオークランドにおける図書館活動の現状を調査し、図書館サービスの実態を明らかにすることを目的とする。

本研究では、ニュージーランド、オークランドの公共図書館を主な研究対象とする。文献調査とウェブサイト調査を通じて、ニュージーランドの地方行政の動向や、図書館運営に活かされている地域の特徴をまず把握した。次いでオークランド公共図書館に関して地域住民の特徴を活かした図書館プログラムに着目しながら、サービスの概要を明らかにした。また、メールインタビュー、訪問調査、現地インタビューを行うことで、オークランドにおける図書館サービスの実態をより詳細に把握した。

調査の結果、オークランドの図書館では、地域に固有の文化を尊重すること、学習支援と就職支援、そして利用者の要求の把握と対応に力を入れていることが明らかになった。また、プログラムに近隣の学校、商業施設、ビジネス協会、コミュニティグループなどの団体が出資者あるいは提供者として関わる場合がある。この場合、地域住民の図書館への関心がより高まることが期待される。また、提供側として関わることにより、地域住民が図書館を自分たちのものであると認識し、図書館により親しみを感じるという効果もある。

現状の課題としては、館内秩序と親しみやすさの兼ね合い、財政の問題、自治体の変化と住民構成の変化への対応がある。特に利用者の要望を把握する方法については、現在活用している意見箱やウェブ上の意見フォームに加えて、より幅広い利用者から時間をかけて不満や提案を受け取ることが望ましいと考えられる。意見収集の手段については今後も検討の余地があると結論付けた。

本研究ではニュージーランドの移民政策や教育政策の変遷と図書館との関わりについては言及していない。また、ニュージーランドでは自治体の合併・再編によりサービス環境が変化し続けている。図書館の活動の実態をより総合的に把握するためには、政治や人口構成の変化と図書館の関係についても継続的に調査を行うことが望まれる。

(指導教員 吉田右子)